

「新ホール整備候補地調査」の結果について

1 新ホール施設規模・機能の概要

(1) 調査モデルプラン

構 造：地上4階＋地下1階、鉄骨鉄筋コンクリート造
延床面積：約11,400㎡（現計画：16,223㎡）
配 置：エントランスは駅側、舞台・搬入はあわぎんホール側
構 成：大ホール（客席3層 固定席1,504席＋仮設席・立見席）、
舞台、楽屋、リハーサル室、スタジオ・活動室 等
舞 台：照明バトン、音響反射板、迫り・オーケストラピット等の舞台機構、
袖舞台、奈落等の機能は、現計画の基準を維持
騒音振動：適切な防音・防振対策により、音響環境を確保可能

(2) その他

カフェ飲食：公演に影響されやすいホール内ではなく、
パークPFIを活用し、藍場浜公園東エリアでの民間運営を検討
地下駐車場：直下の藍場町第1地下駐車場は解体が必要

2 コスト・スケジュール

(1) 概算工事費

本体工事費：約142億円
※令和6年4月時点の単価を基に、構造・設備・外構工事等の積み上げにより算出
関連工事費：約12億円（藍場町第1地下駐車場 設備移設・解体等）

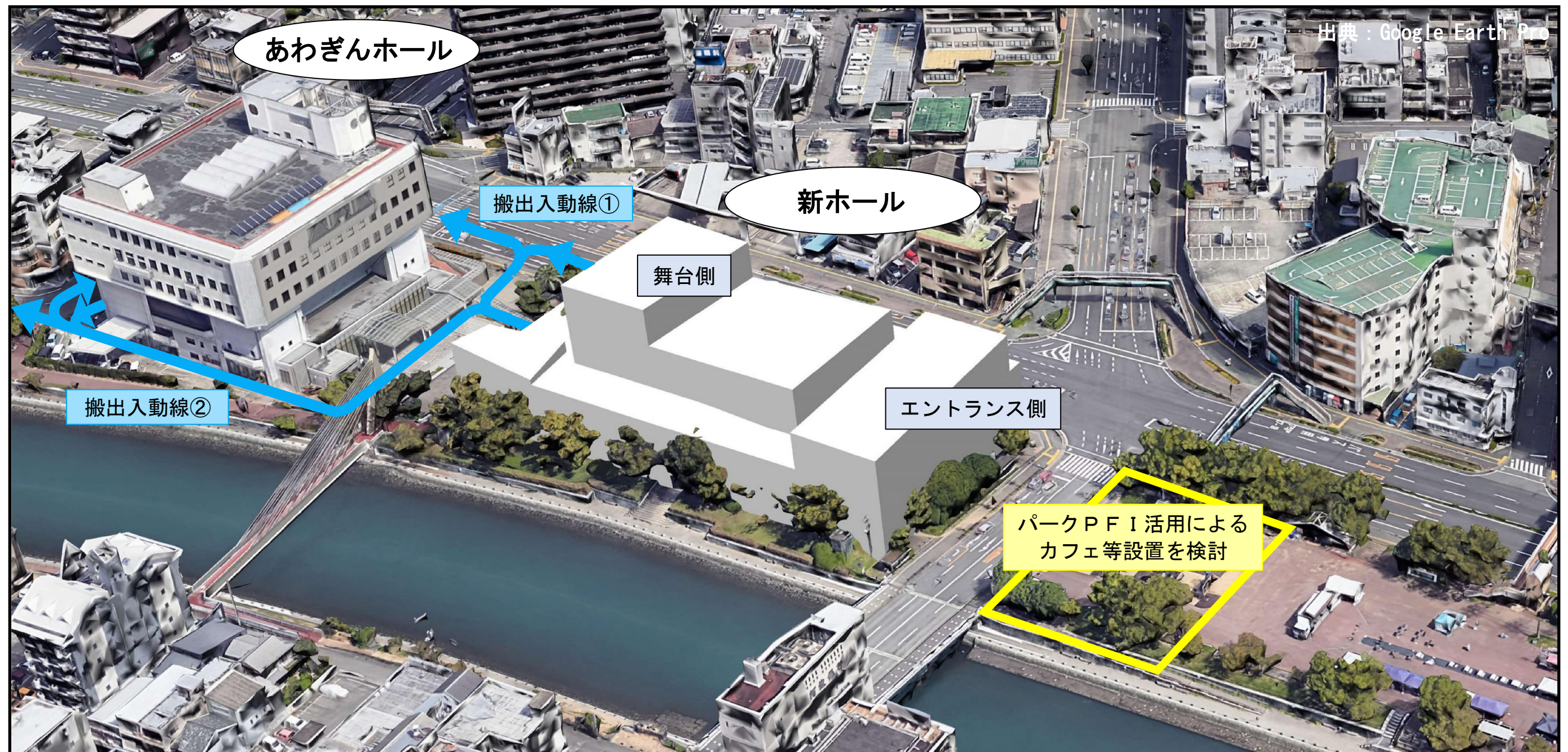
(2) スケジュール

設 計 期 間：約1年6ヶ月
施 工 期 間：約2年10ヶ月
※設計期間及び施工期間は、今後の整備手法や選定事業者により変動
その他期間：計画改定、合意形成、事業者選定などに数ヶ月間必要
整備手法をPFIとした場合、導入可能性調査に約1年必要

3 その他

調査結果の詳細については、別紙概要版のとおり

藍場浜公園西エリア 新ホール配置イメージ図



- 徳島駅側にエントランス、あわぎんホール側に舞台・搬入を配置することで、敷地の形状に合わせた効率的な諸室配置が可能
- 大ホールは1,500席以上とし、クラシック音楽・オペラ・ダンス・演劇など様々な演目に対応した舞台機能を確保
- 適切な防音・防振対策により、周辺環境の影響を受けない音響環境を確保
- 11トトラック2台分を確保できる搬入ヤードに加え、2パターンの搬出入経路により、スムーズな運営が可能
- あわぎんホールとの一体活用時は、搬出入経路上に大型車両の複数台待機が可能
- カフェ等は、公演に影響されやすいホール内ではなく、隣接する藍場浜公園東エリアにパークPFI活用による設置を検討し、徳島駅側からの人の流れや日常的なにぎわい創出が可能

新木一ル整備候補地調査業務 調査結果（概要版）

敷地条件の整理

敷地諸元 【新候補地】	
■ 計画地	徳島県徳島市藍場町2丁目14番地他（通称「藍場浜公園・西エリア」）
■ 敷地面積	新ホール予定部分 約 6,600㎡ ※あわぎんホール側敷地の一部を共用 (現況の敷地境界、あわぎんホールの敷地境界等、今後確定が必要)
■ 用途地域	都市公園・商業地域
■ 建蔽率 / 容積率	商業地域の場合：100%（角地緩和、耐火建築物緩和 適用の場合） / 400%
■ 防火地域	準防火地域
■ その他の地域	駐車場整備地区（1台/特定用途150㎡＋1台/非特定用途400㎡あたり）
■ 埋蔵文化財	徳島城下町跡及び関連遺跡の指定（徳島城下町跡（寺島））
■ 前面道路幅員	北東側 約 27 m (国道 192号線) 北西側 約 11 m (市道 南出来島本線) 南東側 約 19 m (市道 春日橋通り線) 南西側 約 3.5 m (市道 郷文側道歩線) 敷地中央 約 1.9 m (市道 藍場・船場歩線)
■ 道路斜線	20m／勾配 1.5
■ 隣地斜線	31m／勾配 2.5
■ 北側斜線	なし
■ 日影規制	なし
■ その他の高さ・階数制限	なし
■ 都市計画施設	
□ 都市計画公園	4.4.2 新町川公園（地区公園：徳島市決定）
□ 都市計画道路	8.7.2 藍場町西大工町線 幅員6m
□ その他の都市計画施設	2号藍場町公園駐車場（告示番号：徳島市 70 号） 駐車台数：295台(内：今回計画敷地内 95台)
■ その他の必要な届出等	開発許可(都市計画法第29条)
■ インフラの状況	
□ 電気 □ 水道 □ ガス □ 通信 □ その他	
■ BCP	
□ 浸水深さ：高潮（最大1.0～3.0m）／ 津波（最大1.0～2.0m）	

敷地現況図

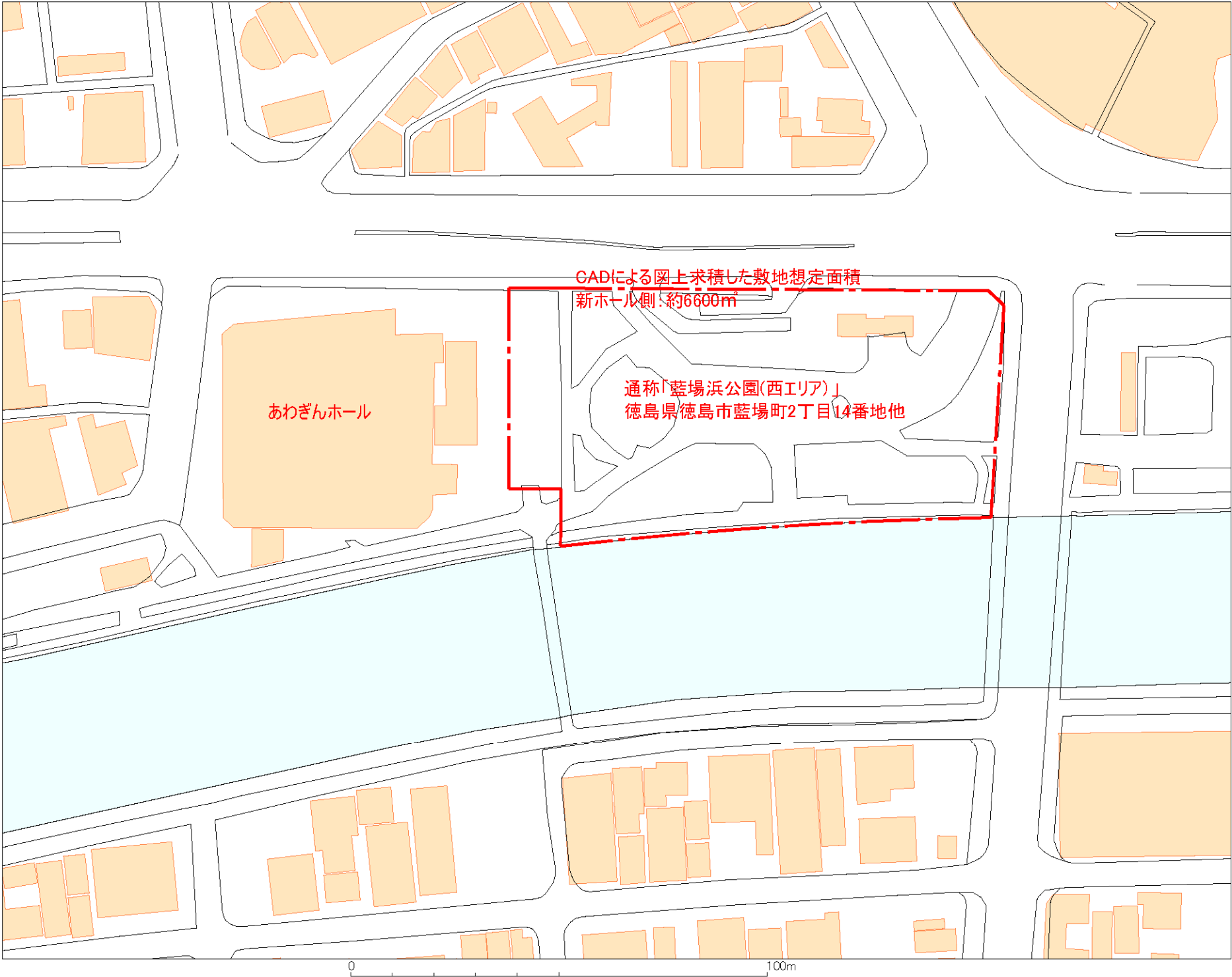
徳島県徳島市

世界測地系
第4座標系
西 95,969,843
南 118,592,044
東 98,429,605
北 120,509,172

縮尺:1/1200



T.P=0.00m



地質調査

No3

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調	査	者	松本文 龜場浩公 地質調査業務
---	---	---	-----------------

事業名 または 工事名 連報 (4月18日)

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング番号	No. 3	調査位置	池島港池田倉庫南側27目	北緯	34° 04' 28.61"
船名	津島丸	調査会社	株式会社 エス・ピー・シー	経緯	132° 33' 43.69"
調査者	池田 浩二	主計技師	阿部 哲也 第11645号	調査年度	2002年度 4月 17日 ~ 2002年度 4月 18日
調査船名	丸 7.7 2.41m	角	30°	測 定 者	池田 浩二 第11645号
開口長さ	28.00m	方 位	方位角 30°	試 験 機	東京地下工機-1
観 測 孔		度	方位角 30°	エンジン	クボタE80-9
		度	方位角 30°	ポン 浦	東京地下工機D-3

標尺	深度	吸間土質名	現場土質名	地盤材料の工学的性質	物理性質	化学性質	年代	図	尺内水化率測定月	標準貫入試験	試料採取	室内試験	位置			
高度					含水率	液性限界	塑性指数			深度-水化率	100分切りの貫入量	自注時の貫入量	貫入量	貫入量	貫入量	貫入量
(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(k)	(l)	(m)	(n)	(o)	(p)	(q)
1	0.00~0.25	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	10	10	10	10	10	10	10	10
2	0.25~0.50	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	20	20	20	20	20	20	20	20
3	0.50~0.75	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	30	30	30	30	30	30	30	30
4	0.75~1.00	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	40	40	40	40	40	40	40	40
5	1.00~1.25	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	50	50	50	50	50	50	50	50
6	1.25~1.50	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	60	60	60	60	60	60	60	60
7	1.50~1.75	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	70	70	70	70	70	70	70	70
8	1.75~2.00	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	80	80	80	80	80	80	80	80
9	2.00~2.25	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	90	90	90	90	90	90	90	90
10	2.25~2.50	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	100	100	100	100	100	100	100	100
11	2.50~2.75	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	110	110	110	110	110	110	110	110
12	2.75~3.00	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	120	120	120	120	120	120	120	120
13	3.00~3.25	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	130	130	130	130	130	130	130	130
14	3.25~3.50	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	140	140	140	140	140	140	140	140
15	3.50~3.75	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	150	150	150	150	150	150	150	150
16	3.75~4.00	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	160	160	160	160	160	160	160	160
17	4.00~4.25	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	170	170	170	170	170	170	170	170
18	4.25~4.50	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	180	180	180	180	180	180	180	180
19	4.50~4.75	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	190	190	190	190	190	190	190	190
20	4.75~5.00	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	200	200	200	200	200	200	200	200
21	5.00~5.25	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	210	210	210	210	210	210	210	210
22	5.25~5.50	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	220	220	220	220	220	220	220	220
23	5.50~5.75	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	230	230	230	230	230	230	230	230
24	5.75~6.00	砂	砂	砂	含水率 15.0%	液性限界 25.0%	塑性指数 10.0%	砂	240	240	240	240	240	240	240	240


No2

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

圖	宣	卷	85 文木	藏場五公開	地質調查業務
---	---	---	-------	-------	--------

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング	No. 2	調査仕度	徳島県高松市藍町7丁目	北緯	
井 注 記	徳島県 未栄新田造成 管付、未栄新田造成	設置時期	令和6年 8月 26日	電 位	
委託者名	株式会社 エス・ビー・シー TEL 0893-52-1671	主 査	阿部 哲也 〒7600900	地 代 理 人	堀 隆典 〒761645号
孔 口 標 高	T.P. +0.6m	地 質 配	試料採取 取付地下層D-1	ボ ー リ ン グ 一 覧	
斜 孔 尺 寸	φ 100mm 傾 度 0° ~ 90° 	試 験 機 種	エンジン クボタE80-80	ポン プ	東洋地下工機S-3

[illegible]

No1

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

關 查 者 R5大木 藍橋區公園 融賢調查業務

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

[illegible][illegible]

No4

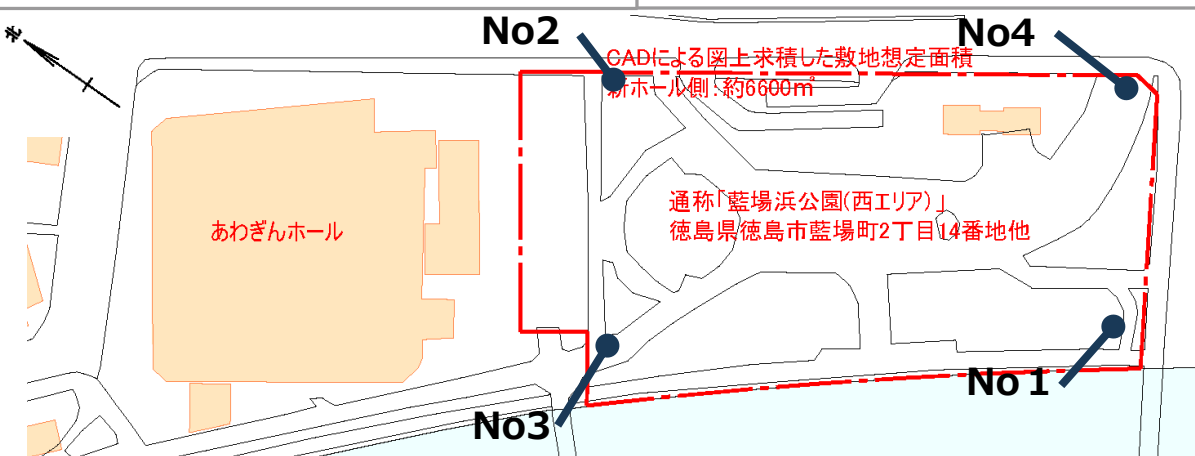
土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

編 著 者 砂文主 藍場浜公開 地質解析調査業務

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング番 No. 4		調査年度 徳島県農産物監視調査27日		北緯	
調査地 秋田県		調査期 2024年 5月 8日 ~ 2024年 5月 11日		経緯	
調査会社 エス・ビー・シー		主任技師 阿部 哲也 電話 0983-52-102		調査員 奥田 祐典 代理人 堀 隆幸 調査員 阿部 哲也 電話 0983-52-102	
調査内容		調査機 車用地下工機01-型		責任者 奥田 祐典 電話 0983-52-102	
調査孔番号 41-00a		エンタツ クラダEX-80		ポンプ 車用地下工機03-3C型	

[illegible]

支持層と想定する層

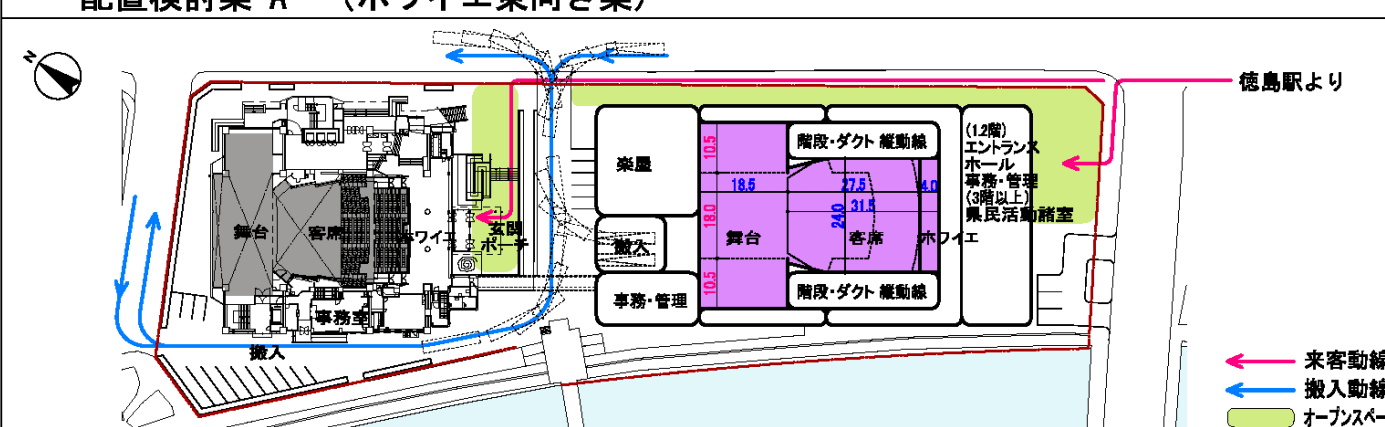
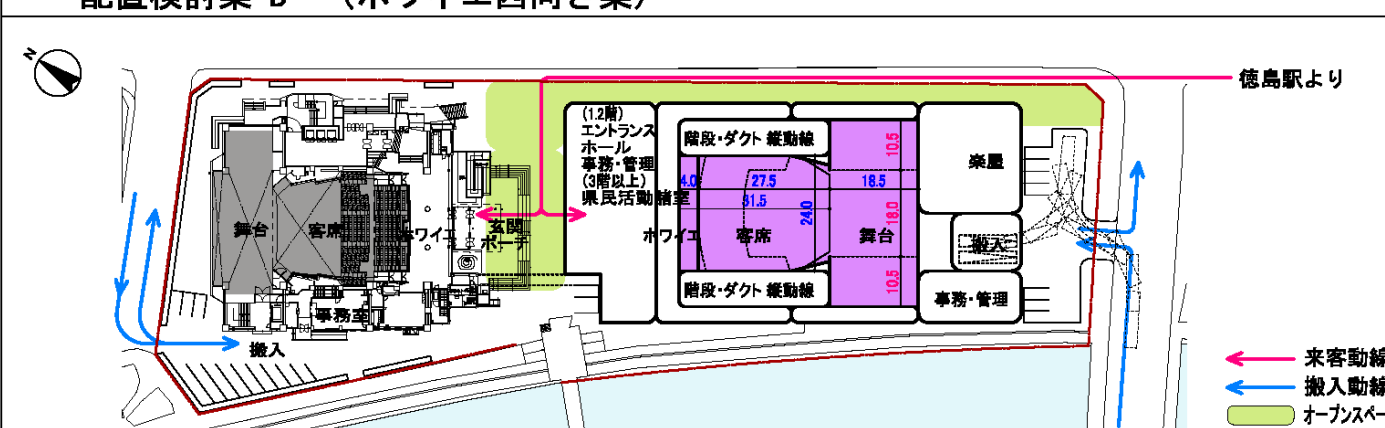
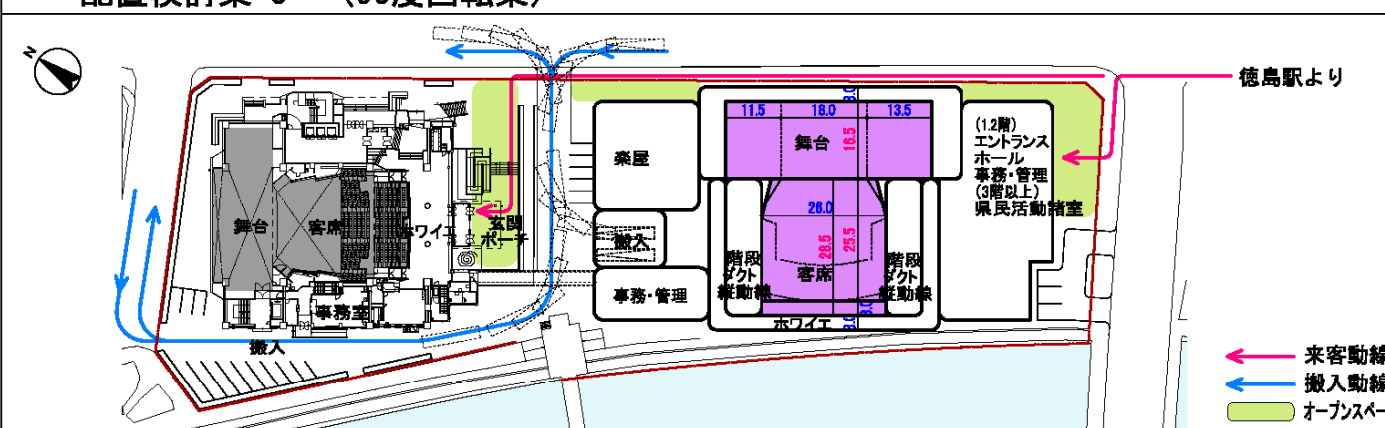
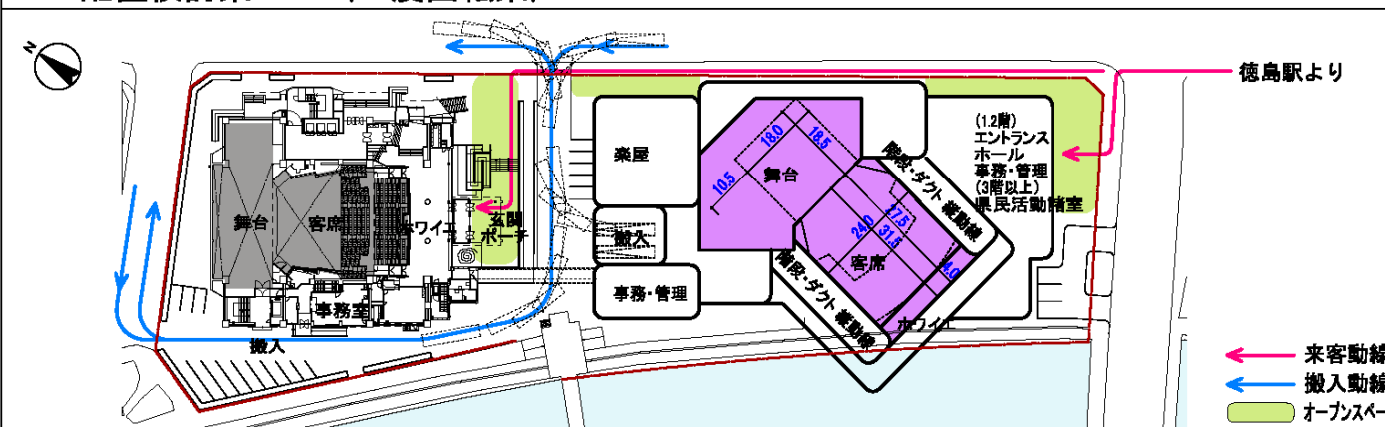
上盤面

2. 0mで掘止め



地質調査4か所実施 2024年3月～5月 ※(株)エス・ビー・シーが実施
 想定支持層の深さは以下の通り
 No1(南西角) GL-36m No2(北東角) GL-20m No3(北西角) GL-19m No4(南東角) GL-36m
 支持層の不陸が大きい地盤の可能性がある、杭工事等の不確定リスクが想定される。

配置計画比較

<p>配置検討案-A (ホワイエ東向き案)</p>  <p>徳島駅より</p> <p>来客動線 搬入動線 オープンスペース</p>	<p>メリット・デメリット (特徴・課題等)</p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none">・ 東側 (駅側) からのアプローチに対して、「顔」をつくりやすい。・ あわぎんホールと搬出入動線が兼用可能。利便性向上。・ 施設全体の構成は比較的に合理的、機能的。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none">・ エントランス機能について、あわぎんホールの正面玄関に搬入口を向ける形となるため、二つのホールを併設する魅力や相乗効果にやや欠ける。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ 敷地の南北方向に余裕がないため、舞台の間口寸法や北側道路からの「引き (余白)」に今後の課題。・ 敷地の東西方向も決して余裕があるわけではないので、ホールの「顔」となるエントランスホール前の余白についても今後の課題。 <p>モデルプランについては、</p> <ul style="list-style-type: none">・ 徳島駅周辺からのアプローチの良さ・ 単体でも合理的・機能的・ あわぎんホールと搬入動線の一体活用が見込まれることから「配置検討案-A」を選んでいる
<p>配置検討案-B (ホワイエ西向き案)</p>  <p>徳島駅より</p> <p>来客動線 搬入動線 オープンスペース</p>	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none">・ あわぎんホールと正面玄関が向き合うことで、二つのホールを併設する魅力や相乗効果を生み出しやすい。・ 施設全体の構成は比較的に合理的、機能的。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none">・ 東側 (駅側) からの来客アプローチに対して、バックヤードを向けてしまうことになるので、意匠上の工夫が必要。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ 敷地の南北方向に余裕がないため、舞台の間口寸法や北側道路からの「引き (余白)」に今後の課題。
<p>配置検討案-C (90度回転案)</p>  <p>徳島駅より</p> <p>来客動線 搬入動線 オープンスペース</p>	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none">・ 東側 (駅側) からのアプローチに対して、「顔」をつくりやすい。・ あわぎんホールと搬出入動線が兼用可能。利便性向上。・ 舞台・袖の間口寸法を十分に確保することが可能。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none">・ 敷地の南北方向に余裕がないため、舞台や客席の奥行寸法が小さくなり、客席の階数が4階以上となる。 (→ 客席奥行寸法の事例等確認必要。) → 今後の課題 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ 敷地の南北方向に余裕がないため、北側道路の「引き (余白)」や、河川際のおさまりにについても今後の課題。
<p>配置検討案-D (45度回転案)</p>  <p>徳島駅より</p> <p>来客動線 搬入動線 オープンスペース</p>	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none">・ 東側 (駅側) からのアプローチに対して、「顔」をつくりやすい。・ あわぎんホールと搬出入動線が兼用可能。利便性向上。・ 演劇劇場 (専用劇場型) として舞台形式や運用に特色を持たせることが可能。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none">・ 上手・下手の舞台袖が変形で、面積もアンバランスなため、大がかりな舞台装置を必要とする演目 (オペラ等) に制約が出る可能性あり。・ 敷地の南北方向に余裕がないため、舞台や客席の形状・寸法が十分にとれるかさらに精度の高い検証が必要。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ 利用団体や想定される公演内容との調整が必要。 <p>備考 (各案共通)</p> <p>※ホールの構成については、タイトな敷地の中で建物をコンパクト化するために3層構成を前提とした。</p> <p>※立見席・仮設席については、詳細設計時の検討になるが、全体の工事費・面積のバランス調整の中で、若干設けられる可能性がある。</p>

配置検討案A 配置イメージ

国道192号線

徳島駅よ

あわぎんホール
徳島県郷土文化会館

新町川

新ホール

玄関ホール
(上層階)
展示・会議・貸室
ゾーン

舞台

客席

ホワイエ
ゾーン

玄関
ポーチ

楽屋ゾーン

舞台

客席

ホワイエ
ゾーン

搬入

事務・管理
ゾーン

玄関ホール
(上層階)
県民活動室
ゾーン

搬入

事務・管理
ゾーン

来客動線

搬入動線

備考

※ 本図はイメージ図であり、敷地測量および河川際の境界調査等の結果により、計画が変更となることがあります。

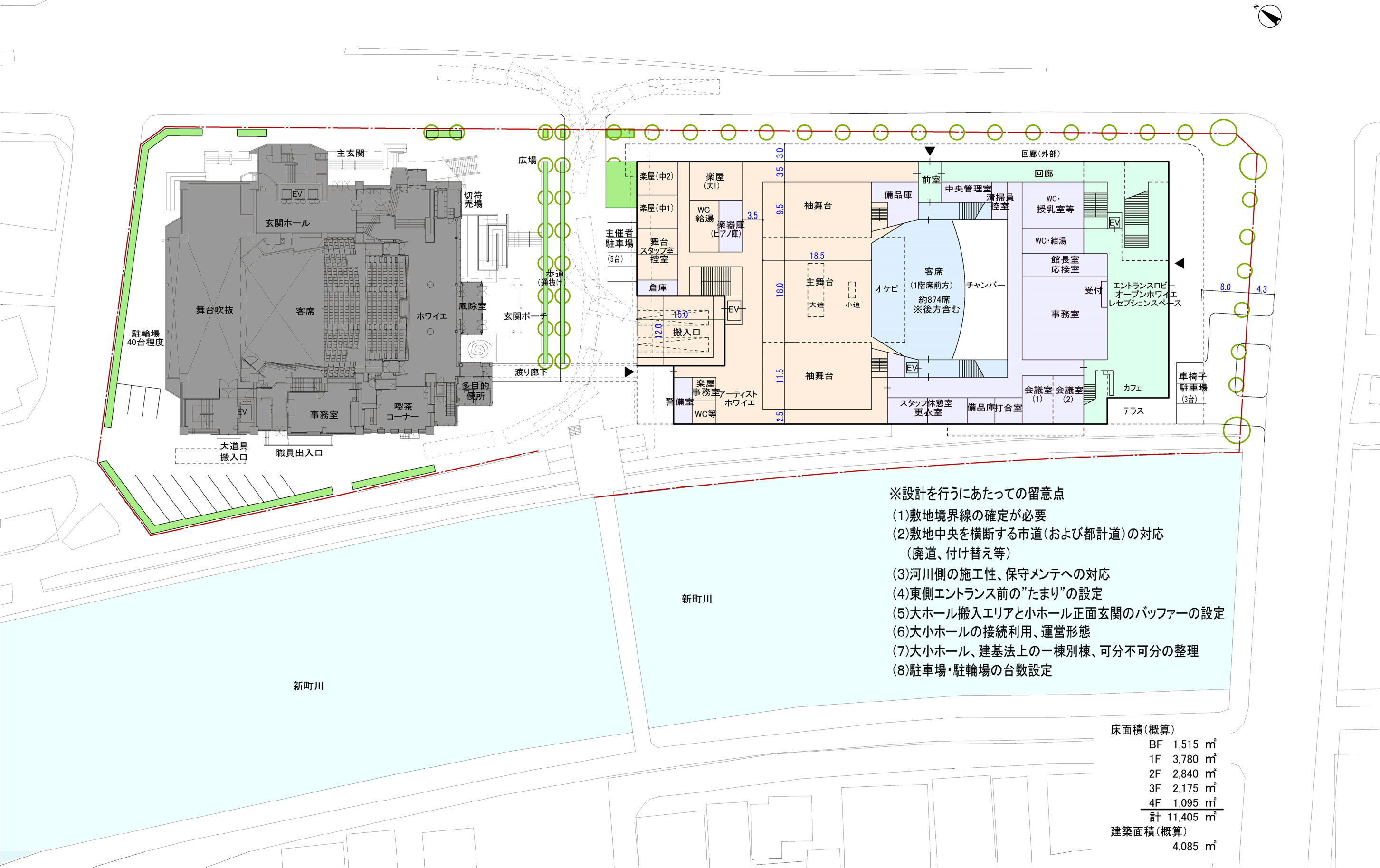
※ 所轄の関係省庁、関係部局との協議により、計画が変更となることがあります。

備考

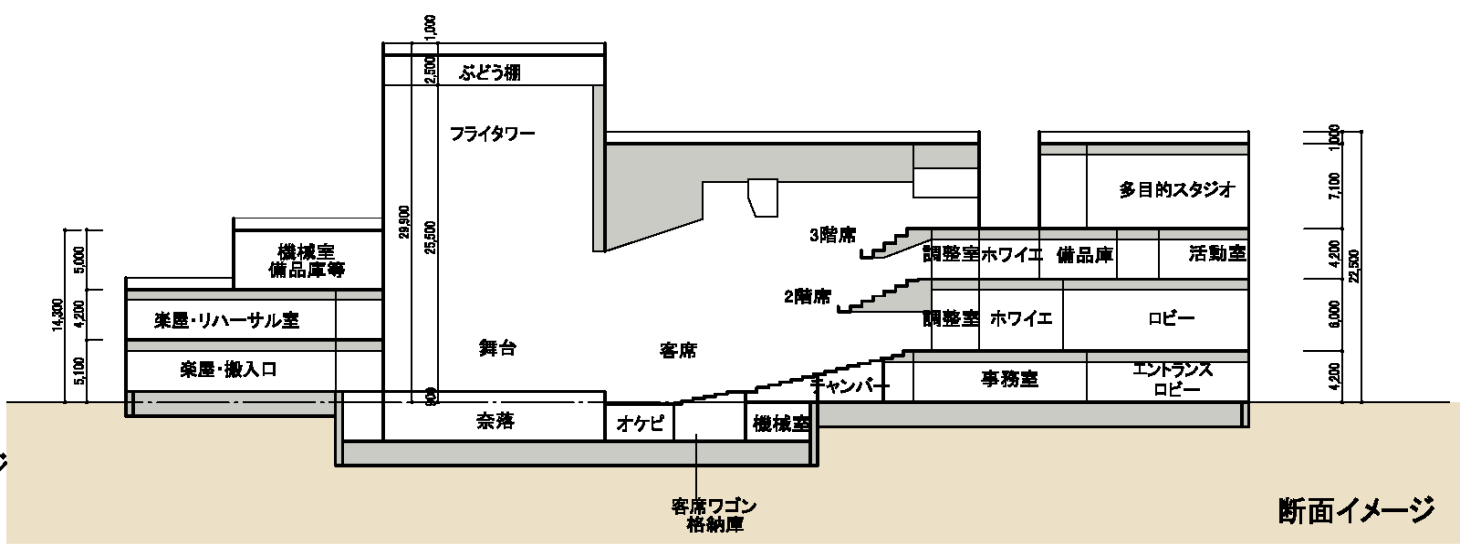
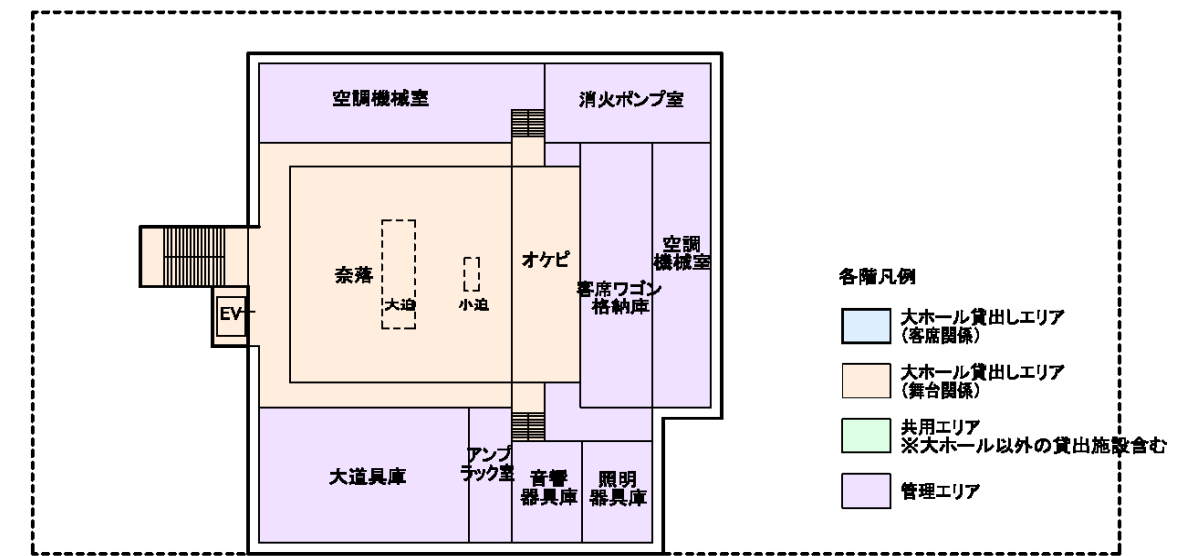
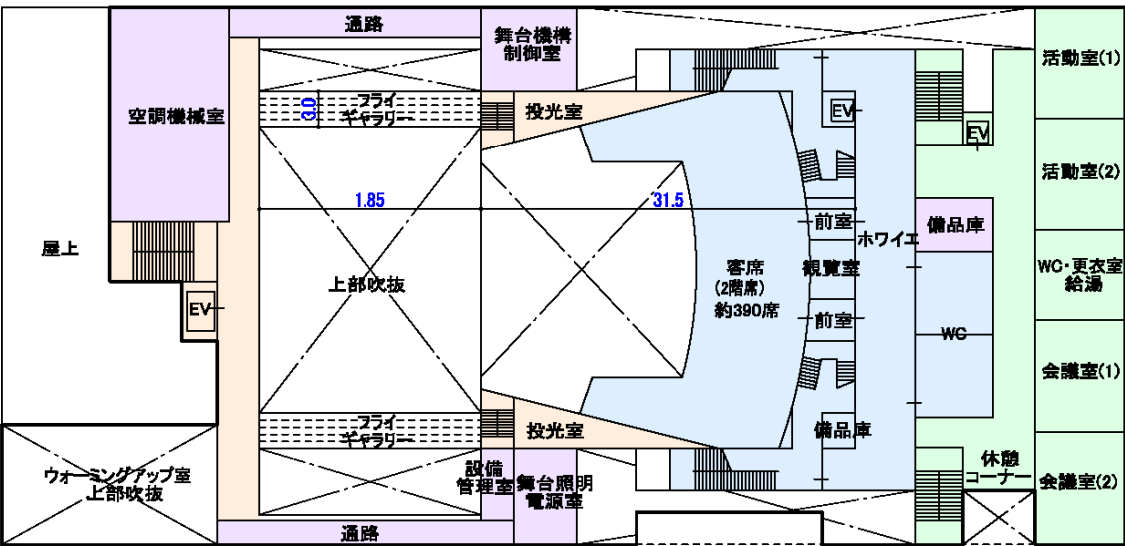
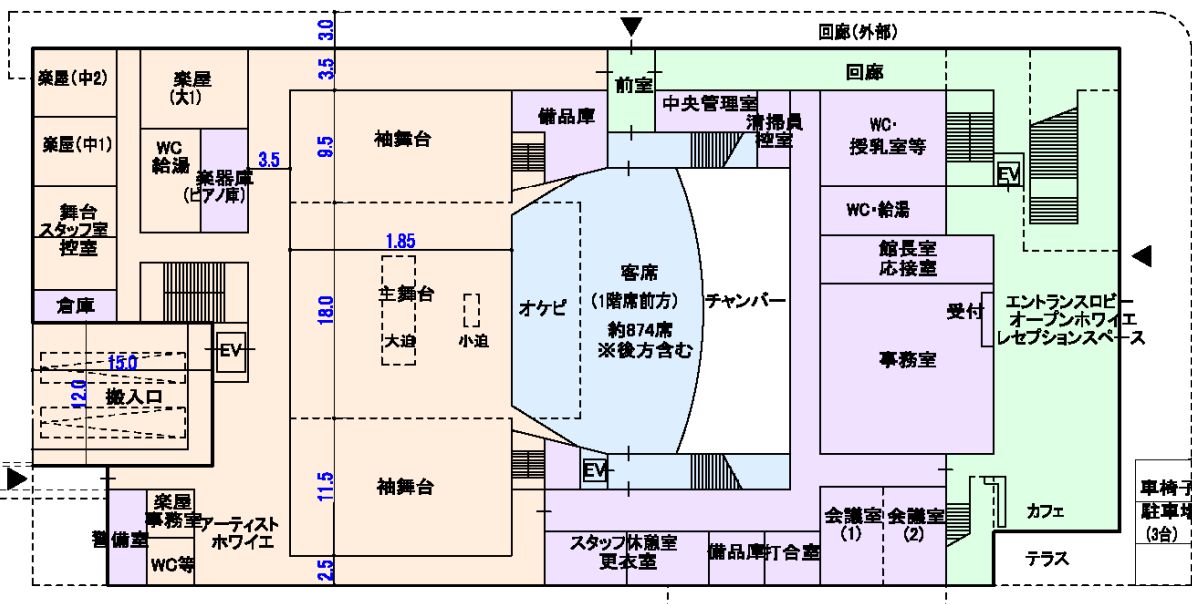
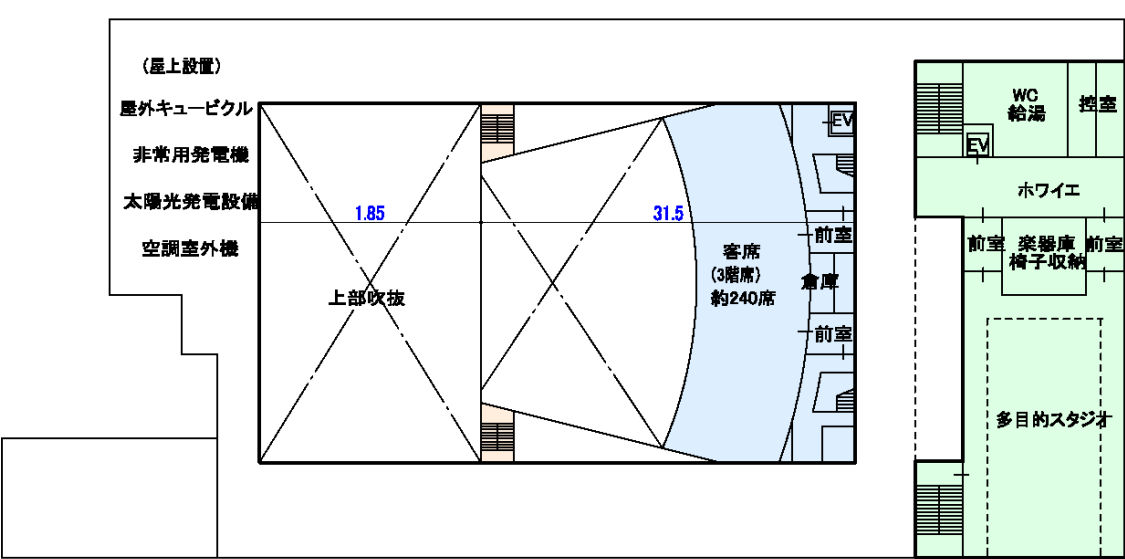
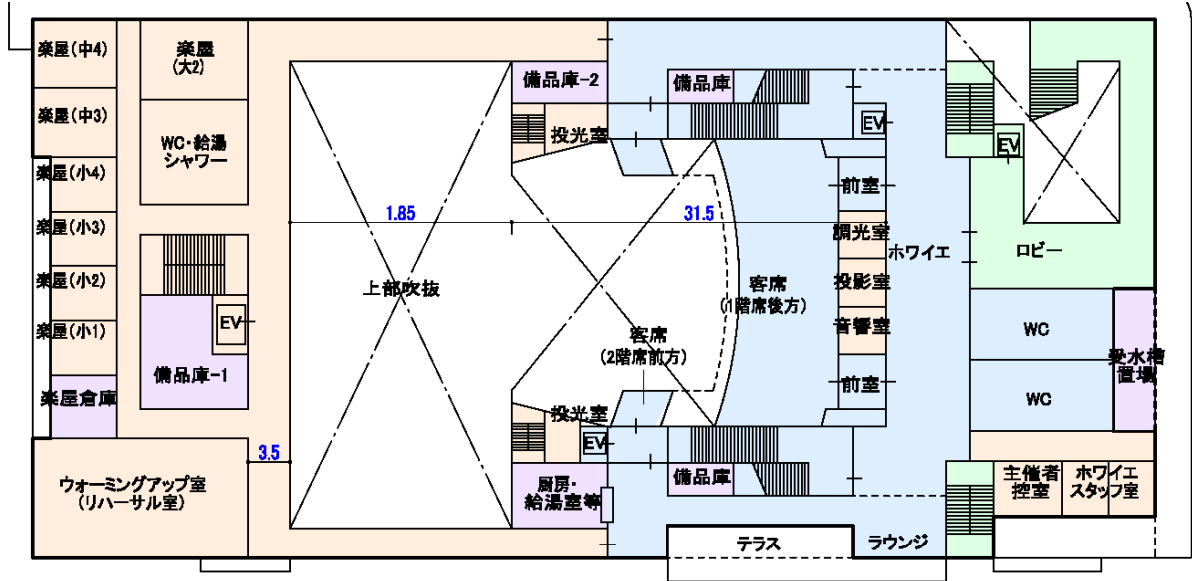
※ 本図はイメージ図であり、敷地測量および河川際の境界調査等の結果により、計画が変更となることがあります。
※ 所轄の関係省庁、関係部局との協議により、計画が変更となることがあります。

新ホール 配置イメージ図

モデルプラン配置イメージ



モデルプラン平面イメージ



コスト・スケジュール

建設場所	藍場浜公園(西エリア)	(参考)徳島市文化センター跡地
本体工事費	約142億円 ※その他関連工事費(藍場浜第一駐車場設備・解体等) として約12億円を見込む	193億9,300万円
延べ床面積	約1万1400㎡	1万6223㎡
大ホール	固定1504席+立見・仮設	1804席 (固定1726+立見・仮設等78)
小ホール	なし (隣接するあわぎんホールを活用)	307席 (固定293席+立見・仮設等14)
設計期間	約1年6ヶ月	実施済
工事期間	約2年10ヶ月 (4週8閉所)	約2年11ヶ月 (4週8休)